



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

子育て・親育ち勉強会 第11回 「ん？うちの子、ちょっと心配？」 と思ったら 小・中学校編

講師：^{かほひら}帷子 顕二郎さん
日光市教育委員会 発達相談員（臨床心理士）

3月14日(土) 市民活動支援センターにて開催



カット: numata

日光市教育委員会 発達相談員（臨床心理士）の帷子顕二郎さんに事例検討を2例出していただき、3グループに分かれ、参加者が当事者・親・観察者になってロールプレイングを行いました。帷子さんに講評や参加者の質問にも答えていただき、参加型の充実した勉強会になりました。以下、5名の方からいただいたアンケート回答のまとめです。

1. 勉強会を何で知ったか

- ① 知人・友人 1名
- ② チラシ 5名

2. 印象に残った点や感想など

対話の仕方が成長につながるということを学んだ。感情的になりがちだが、気をつけたいと思う ◆《ロールプレイ》がとても興味深かった。《説明、受容、提案》がとてもためになったので、今日からぜひ生活に取り入れたい ◆子どもの気持ちになって話を聞いてあげるのが大切だと思った ◆ロールプレイを通して、わが子の気持ちを体験でき、今後のかかわり方について前向きになれた。子どもの話を上手に聞くことと受け入れることが私の課題だったので、貴重な体験だった ◆年に何回かこういう機会があったら、出席したいと思う。

3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいか

発達障害の子の付き合い方、対応について ◆今回のように子どもとの対話の仕方や話の引き出し方 ◆会話のキャッチボールをたくさんできるようにしたい ◆発達障害の子どもを持つ親の勉強会 ◆これからも支援の仕方、いろいろなパターンを通して教えていただきたい。5名の方全員から、「今後の勉強会などの情報を通知してもよい」との回答をいただきました。

(西尾、白井)

子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時: 毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費: 300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel:090-3227-7079)

目次

子育て・親育ち勉強会報告	1
測って守る(放射能測定)	2
活動日誌	3
さくらそう便り	3
文科省アンケート	3
こんな本はいかが・29	4

居場所のひとこま

「そろそろ植えどき」と高橋さんからの連絡。準備までしていただき、畑をお借りして、ジャガイモを植えました。4月は暖かい日と肌寒い日が交互にやってきて、調子の悪い人が多く、今回は高橋さん+3人の参加で種いもを植えました。まず土を平らにして…それからの手順は3ページをご覧ください。(N)



測って守る ～ 放射能測定の実況 ～

2012年9月に行われた日光市主催「放射性物質と健康を考えるシンポジウム」にパネラーとして参加し、市民と行政共同で行う放射能測定の必要性を強く感じました。実現に向けて要望書を提出、日光市との意見交換を行ってきました。

一昨年からNPO内に「環境研究班」を立ち上げ、放射能測定器の使用について日光市担当課と相談。「市民への公平性」や「市民に告知した内容での測定に限定」など行政の壁は厚く、ようやく実現した土壌測定についても、結果が放射性セシウム合算値であること、誤差表示がないことなど測定内容に不満がありました。そこで昨年9月、自力での測定を目指して放射能測定システム(FUIJapan製 Chappy Digital 211) および恒温槽の導入にふみきました。

まず、遮蔽用の鉛ブロック10個(1個11kg!)が到着。秋葉原で中古ノートPCを購入(1万円)するなど準備を進めるうち、検出器本体が届きました。セットアップを始めたら、わからないことばかり。FUIJapan社に何度もメールや電話で問い合わせ、9月末にやっと運転開始にこぎつけました。まず「塩化カリウム」で調整し、高精度のゲルマニウム検出器を持つ研究機関の協力で同一試料を測定することにより精密校正を行い、土壌測定を10月より始めることができました。その後、恒温槽を導入。鉛遮蔽内に置かれた検出部の温度を $16 \pm 1^\circ\text{C}$ の範囲で安定させることにより、長時間(～24時間)測定を可能としました。食品などの測定に効果を発揮しています。

日光市とその周辺は、原発事故当時の降雨の影響などにより、放射汚染の地域差が顕著です。地表より5センチメートルの深さで採取した乾燥土壌でキログラムあたり数百ベクレルから数千ベクレルの放射性セシウムが検出されます。家屋の雨樋直下では数万ベクレルを記録する小さなホットスポットもみつかります。環境の放射能汚染を知り、放射線被ばくを減らすための対策を提案することが測定の目的です。測定結果は、市民や子どもたちに放射線防護の知識を広めるための資料として今後活用します。

(1) 土壌調査の継続

昨年度は市内約50か所の土壌サンプルを採取し、放射エネルギーを測定しました。土壌試料はすべて保存してあります。再測定終了後は、新たな地点で土壌採取を行い、月10か所程度の測定を行っていききたいと思います。ゲルマニウム検出器で精密測定された線源(50Bq/kg程度)を用いて校正を行い、測定の信頼性を確保しています。

(2) 食品や木材などの放射エネルギー測定

食品については日光市に市民向けの測定サービスがあります。加工食品、焼却灰など制限がある測定対象につ

いて、希望に添った測定を行います。また、森林の汚染状況を知るために、木材、樹皮などを測定します。

食品等についてはシステムの測定下限値に迫る測定が必要です。このシステムの下限値は、試料300g程度、数時間の測定で、20～30Bq/kgですが、恒温槽に入れ、長時間測定を行うことでより低い下限値で測定できます。精度を確認するため、より低濃度の放射性セシウム標準線源の装備を検討しています。

(3) 測定結果の公表

分布地図を作成し、どのような形式でホームページなどに表示していくかは今後の課題です。市民や子どもたちがアクセスできる、放射能・放射線防護の知識を得るためのデータとなるよう、地域への情報提供方法を工夫していきたいと思っています。

(4) 他団体との連携による放射能・放射線測定

本測定システムは5cm厚の鉛遮蔽ブロックや制御用パソコンを含めても25～30万円で導入することができます。ただし、立ち上げ時の調整とメンテナンスには手間がかかります。いっぽうで、その作業を通じて放射能測定の実際を知ることができるという利点があります。測定用プログラムを変更することで、空間線量計として使用することも可能です。これから長く続く放射能汚染の問題を、教育の場でも取り上げ、みんなで考えていくため、測定器の展示、放射能に関する学習会や注意を喚起する講演会などを継続して開いていきたいと思っています。

(環境研究班: 手塚、三上)

(注) Bq/kg 測定試料1キログラムあたりのベクレル数をあらわす放射エネルギーの単位。「1ベクレル」は対象となる物質内で1秒間に1回の原子核崩壊が起こり、放射線が放出されることを示す量です。

土壌採取の手順

対象地点周辺の7か所に鉄単管(内径4.5cm)を5cm差し込み、管に入った土壌を採取します(下写真)。

ビニル袋に入れ、よく混合します。

採取した土は水分の含有量をそろえるため、天日で数日乾燥させ、さらさらの状態になったら質量と体積を測定します。次に、380mlの測定容器にできるだけ押し込んで再度重さを計り、測定器にセットします。



☆ 活動日誌

- 2月 4日 (水) 通信「なんとなくのひろば」第38号 発行
 2月 4日 (水) 日光市「文化創造館」説明会参加
 2月 8日 (日) ベリー会：講演会
 2月 9日 (月) 茶話会 (第54回)
 2月24日 (火) 利用者関連の支援者会議 (日光市家庭児童相談所)
 3月 9日 (月) 茶話会 (第55回)
 3月11日 (水) 理事会 (第64回)
 3月14日 (土) 子育て・親育ち勉強会 (第11回)
 3月28日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会
 3月29日 (日) ベリー会：月例会 (当事者体験談発表あり)
 3月30日 (月) 子どもの居場所・運営業務委託入札手続 (市役所)
 4月 3日 (金) 子どもの居場所・新年度スタート
 4月17日 (金) 子どもの居場所・ジャガイモ植え付け

お知らせ

なんとなくのになわ 第11回 通常総会

2015年5月9日 (土)

午後2時より

日光市民活動支援センター

(Tel 0288-22-2271)

2014年度 事業報告および決算報告

2015年度 事業計画および予算案

役員の選任について

会員が交流し、意見交換できる場です。お誘い合わせの上、気軽にご参加ください。

さくらそう便り

2014年5月に、特定相談支援事業・障害児相談支援事業の事業所として日光市の指定を受け、1年が経とうとしています。これまでに、45名の計画を作成してサービスにつなげてきました。

発達障がいだけでなく、身体障がい(視力・上下肢・体幹・心臓・じん臓)知的障がい・精神障がい・重複障がい…、さまざまな方々に出会い、学ぶ事も多い一年でした。

市内・外の事業所の方々にもお世話になり、たくさんの方に、「なんとなくのになわ」のことも知ってもらえ、意外なところから見学の申し込みがあったりします。まだまだ、勉強不足ですが、利用者の方に教えてもらいながら進んでいこうと思います。

(西尾・栗原)



文部科学省・フリースクールアンケート

前回の通信で「今後注目していきたい」と書いたフリースクール等検討会議。「文科省初等中等教育局フリースクール等担当」というところから、3月31日付けのアンケートが送られてきました。

調査項目は施設・団体の概況(創設年、施設の分類など)、在籍者・登録者の状況、施設の職員の状況(スタッフ人数、ボランティアや外部講師の人数など)、活動内容、週あたりの開所日数、学習指導の教材について、その他利用者の経済的負担、施設に関する状況など。

「子どもの居場所」は日光市の委託事業として運営しています。アンケート内の団体・施設の設置者や形態に関する回答項目には、このようなスタイルでの居場所についての選択肢がなく、コメント欄に「日光市からの運営業務委託により本NPOが運営しています」記入しました。「日光市子どもの居場所」の運営形態は全国でもまれなのではないかと思いつながりながらネット経由のアンケートに答えました。全国的な状況について、まとまりしだい公表されること。検討会などの資料は以下のページで閲覧できます。(手塚)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/107/shiryo/attach/1355710.htm

子どもの居場所・ジャガイモ畑



まず、うねを作り、そこに歩幅くらいの間隔で鶏糞と肥料を置きます。間に種いもを置いていきます。

3つのうねができました。植えた種いもは50個くらいでした。

雨が降ったり晴れたり、お天気の変化が激しく、風も強い4月の午後、畑のオーナー高橋さんの指導で仕事が進みました。土をかぶせ、平らにならしてできあがり。芽が出てくるのが楽しみです。



特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
<http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？

その 29: 電気がなくても、人は死なない。

元・東電原子炉設計者が教える楽しい「減電ライフ」
木村俊雄: 著 洋泉社

震災直後、熱心に唱えられていた「節電」はどこへ行ってしまったのでしょうか。「電力消費量を減らして、原発のいらぬ日本にしよう！」というこの本の主張は、あらためて新鮮で、納得できます。電力不足をみんなが心配していた時期、家庭で使う電気量を見直し、消費を押さえることがいちばんの「発電」であるというかんがえは、多くのメディアに顔を出していました。ところがいつの間にか、原発事故前とおなじ電力大量消費時代に戻ってしまったように思えます。

著者の木村さんは福島原発事故を予見した元原子炉技術者として、事故後マスコミに取り上げられた方です。序章に、「電気ポットを全部なくせば原発3基分の電力が余る」という見積もりがあります。続いて、電力消費を押さえるためのいろんな手法が紹介されます。「持続可能な自然エネルギーの活用」は話が大きくなりがち。それに比べて、「電気を節約して使う」ことは生活の中で、誰でも可能です。無理強いせず、できる範囲でできることをやろうという発想は、原子力発電所での仕事をやめ、いまは自然に囲まれて暮らす木村さんの生活実践から出てきたものだと思います。

1991年、福島原発での作業中に非常用発電機が浸水するトラブルがあり、「津波が来たら大変だ」との考えを伝えると、上司に「安全審査で津波を想定することはタブーだ」と言われたこと、そんな東電の姿勢に疑問を持ち、「東電学園卒業」という技術者としてのキャリアを捨てて2000年に退職したこと、その後の福島県での生活、震災時の避難の様子なども描かれています。また、情報公開請求で東電から取ったデータを、設計者時代の知識を駆使して解析した結果、「福島原発は津波の前に冷却機能を停止していた」、「溶融した炉心はいまだ臨界状態」などの記述は迫力があります。福島原発事故の原因究明は不十分で、しかも危機的状況は今も続いているのです。

編集者が付けたのか、内容とマッチしない題名のような気がして、売れ行きが心配。ともかく、子どもたちの未来を考えるためのひとつの実践書として、一読をおすすめします。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：43
賛助会員：19
団体会員：4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

3月の「勉強会」で誕生日の順か何かで役割が決まり、「まわりの子どもから無視や悪口のいじめを受け、学校へ行きたくない中学生」をやることに…

■お母さん役の方は、いろんな方向から攻めてきてなんとか学校へ行かせよう、高校にも行かせようと頑張る立場。私はあれこれ理由を考えて、学校は行かない受験もいやだとアピールしようとしてみました■終わってふりかえると、ああ、子どもの気持ちになるのは難しい、おとなの世界での対応をしてしまったと気付きました。追いつめられた中学生、まったく黙ってしまうか怒って暴れだすか、気分はどちらかに向かうのではないか。中学校を出てから半世紀も過ぎると、理不尽な強要は適当に受け流し、嘘を使ってでも逃れる処世術が身についてロールプレイングの場にも顔を出してしまう■「子どもの気持ちに」って言うのは簡単だけれど、とっても難しいと感じた土曜日の午後でした。(T)